

「学生による授業評価」のまとめ 2015 年度春学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 浦上 昌則

2015 年度春学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2015 年 7 月 1 日～2015 年 7 月 21 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 563 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 20 個あります。設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う項目です。設問 4 から 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う項目になっています。設問 19 と 20 は、到達目標に関して問う項目です。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2015 年 7 月 1 日～2015 年 7 月 21 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2015 年 8 月 3 日) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2015 年 8 月～9 月) → 教員からの報告書提出(2015 年 8 月～9 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2015 年 9 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2015 年度春学期」の発行(2015 年 12 月)

2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

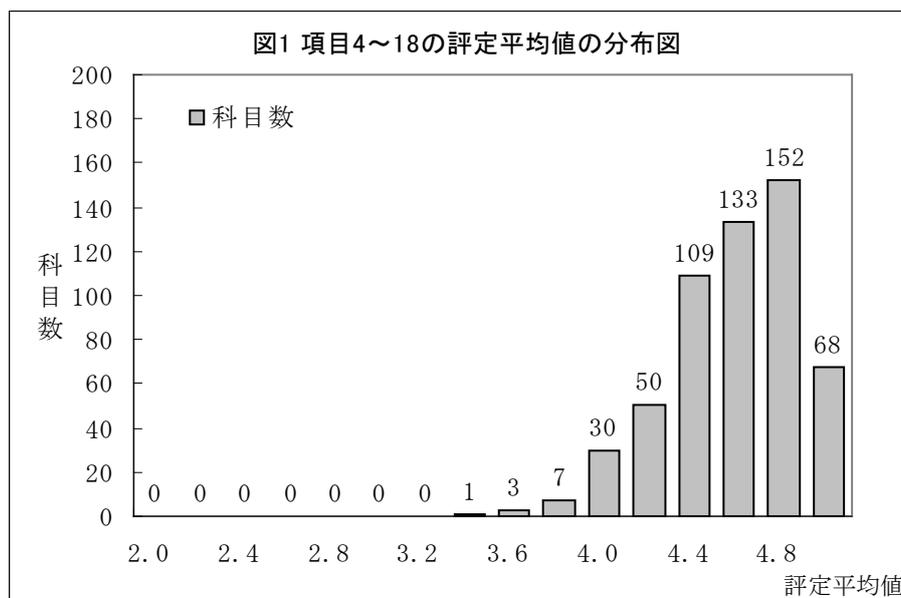
① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.29% (559/563 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.20% (495/499 科目)、瀬戸 100.00% (64/64 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 100.00% (588/588 科目)、キャンパス別には名古屋 100.00% (524/524 科目)、瀬戸 100.00% (64/64 科目) でした(評価

対象科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が4名以下の科目は、学生による授業評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数25が、①で示した科目数にプラスされています)。

③ **評定平均値** 設問1から3までの学生の授業参加を問う項目と、設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問4から設問18について平均値を算出しています。なお、過去の平均値との比較を行うために、2014年度から新たに追加された設問19と設問20は平均値を算出する際に含めていません。電算処理が行われた553科目(回答数が4名以下の6科目は、電算処理を行っていません)の設問4から設問18の評定平均値の大学全体での平均は4.39でした。この平均値についての科目数とその分布を図1に示しました。

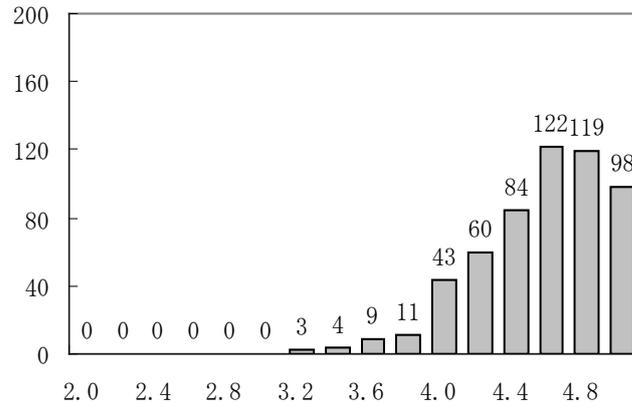
電算処理実施科目のうちの約90%の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.0を超えており(4.0以下が7.4%)、さらに約80%の科目が4.2を超えています(4.2以下が16.5%)。また今回、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目はありませんでした。



項目4～17の各項目の平均値とヒストグラムは、これまでの傾向とほぼ同様なので、ここでは記述を省きます。

設問18(全体として、あなたはこの授業に満足しましたか)は、われわれが最も重視する項目です(図2-1参照)。今回、この項目の評定平均値は4.35でした。約85%以上の科目が4.0を超えています(4.0以下が12.7%)。他方で3.0未満の評価を受けている科目は0であり、学生の満足度からみて大きな問題があるとみなされる授業はほとんどないと考えます。

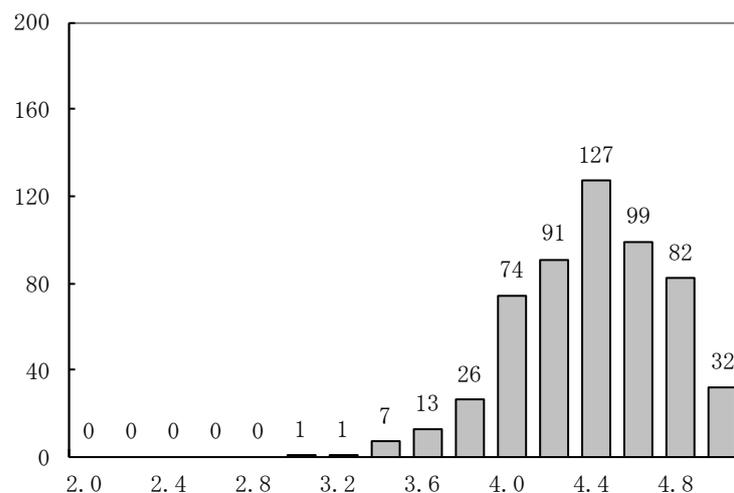
図 2-1 項目 18：全体としての授業満足度



2014 年春学期から追加された 2 つの項目の評定平均値は、設問 19（教員は到達目標の達成に向けて、授業を進めていましたか）が 4.46、設問 20（あなたは到達目標に向けて、着実に力が付いてきていると思いますか）が 4.17 でした。設問 20 は、授業の到達目標を達成できているかどうかについて学生が自己評価をしている項目です。すべての授業や学期末の試験（レポート）が終わっていない段階での自己評価ですので、試験が終わった後にはこの評定値がさらに上がる可能性はあります。そのため、途中経過の指標ではありますが、一方で、調査実施時までの学生の自己評価を知ることができる項目でもあり、報告書を作成する際には是非とも注目していただきたい指標です。

項目 20 の評定平均値にバラツキがある点に注目してみると、4.6 以上の科目は約 20%（4.8 以上となった科目は約 5%、計 32 科目ありました）、4.0 未満の科目は約 22% という結果でした（図 2-2 参照）。この項目の評定平均値が高く、学生が「到達目標に向けて着実に力が付いてきている」と自己評価していることは、授業の効果の一側面だと考えられます。

図 2-2 項目 20：到達目標に向けて力が付いてきている



3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるように

なったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表にして示します。

表1 項目 4 から 18 の評定平均値(2011 春～2015 春)

年度・学期	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋	2015 春
全 体	4.31	4.39	4.35	4.41	4.38	4.40	4.36	4.41	4.39
名古屋	4.35	4.43	4.37	4.42	4.41	4.42	4.37	4.44	4.38
瀬 戸	4.18	4.30	4.29	4.35	4.29	4.34	4.33	4.33	4.46

表2 18 項目ごとの評定平均値(2011 春～2015 春)

設問項目	2011	2011	2012	2012	2013	2013	2014	2014	2015
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
1 授業への出席	4.3	4.17	4.29	4.21	4.26	4.20	4.37	4.24	4.35
2 授業への取り組み	4.17	4.2	4.21	4.15	4.21	4.16	4.24	4.23	4.26
3 自主的な学習の実行	3.1	3.17	3.19	3.25	3.26	3.27	3.29	3.37	3.38
4 授業時間の厳守	4.61	4.6	4.62	4.61	4.63	4.59	4.64	4.62	4.64
5 構成や速度が適切	4.45	4.48	4.46	4.5	4.5	4.50	4.48	4.50	4.51
6 学習目標の明示(※)	4.37	4.45	4.4	4.46	4.44	4.45	4.37	4.43	4.40
7 シラバスの有用性	4.27	4.37	4.31	4.36	4.34	4.36	4.30	4.37	4.36
8 教員の声	4.55	4.6	4.57	4.6	4.59	4.61	4.59	4.61	4.58
9 理解度への配慮	4.26	4.35	4.3	4.38	4.33	4.38	4.32	4.38	4.35
10 妨げ行為への対処	4.23	4.29	4.24	4.29	4.28	4.28	4.26	4.29	4.30
11 板書、配布資料	4.29	4.36	4.33	4.37	4.34	4.38	4.34	4.39	4.37
12 意欲を引き出す工夫	4.07	4.19	4.13	4.22	4.17	4.21	4.16	4.24	4.20
13 自主的学習の指導	4.1	4.23	4.18	4.26	4.22	4.26	4.20	4.29	4.25
14 質問や相談の機会	4.25	4.34	4.3	4.36	4.3	4.33	4.30	4.36	4.33
15 教員の姿勢	4.55	4.61	4.57	4.6	4.58	4.60	4.58	4.60	4.58
16 内容へのさらなる興味	4.13	4.25	4.19	4.27	4.22	4.26	4.20	4.28	4.25
17 知識・理解の深まり	4.33	4.42	4.37	4.42	4.39	4.42	4.37	4.42	4.40
18 全体としての満足度	4.26	4.37	4.32	4.39	4.35	4.38	4.31	4.38	4.35

※2014 年度より学習目標→到達目標

表 1 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4 から 18 の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように 4.39（2014 年度秋学期は 4.41）となりました。これまで、春学期よりも秋学期の方が評定平均値が高いというパターンを繰り返してきましたが、春学期のみに注目すると、2011 年度以降、最も高い値となりました。な

お、本年度より理工学部が瀬戸キャンパスから名古屋キャンパスに移転しましたので、キャンパスごとの平均値の推移については解釈に留意が必要です。

表 2 は、9 期分の 18 設問ごとの評定平均値を示したものです。2014 年度春学期の平均値よりも高くなったのは、設問 2、設問 3、設問 5、設問 6、設問 7、設問 9、設問 10、設問 11、設問 12、設問 13、設問 14 でした。これらの項目のうち、設問 2（授業への取り組み）、設問 3（自主的学習の実行）に加え、設問 1（授業への出席）もこれまでと比較して高く、学生のみなさんがまじめに授業に取り組んでいたことがうかがえます。その他の項目は、ほぼこの 9 期の平均的な値といえます。しかし、設問 3（自主的学習の実行）は過去一貫して低い値に留まっています。この点と関連すると推測されますが、設問 12、設問 13、設問 16 も他指標と比べ平均が低く、また従前より評定平均値がなかなか高まらない設問です。この点が、教員、学生双方にとって今後の大きな課題といえるでしょう。

前 FD 委員会委員長は、任期中の「学生による授業評価」まとめの冊子の巻頭言で、設問 4 から 18 の評定平均値の上昇が止まったことについて、「今後は踊り場（停滞期）に入る可能性があり、授業をさらによくして評定平均値が上昇するには、これまで以上の授業改善への努力が必要になると考えられる」と記されています。また踊り場（停滞期）が続く可能性も示唆されています。私もその意見、推測に同意しますが、いくつかの側面については数値的にかなり満足できるレベルの踊り場にあるとも考えます。そのため今後の方向性として、特定の側面に集中して工夫を重ねることを提案したいと思います。それは、相対的に平均値が低い側面、すなわち学生の主体的な学びを促す、学生は主体的学ぶという側面であることは明らかでしょう。アクティブラーニングなど、参考になる方法論は多く開発されています。FD 委員会はもちろんですが、各単位（学部、学科、共通科目の委員会等）でも、このような側面の情報収集、計画、実践を推進していただけることを期待します。

4 回答率について

「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において、これまで何度も指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。それは、回収率が低いと、情報の信頼性が損なわれるためです。今回を含む過去 9 期の大学全体の回答率、および、授業規模で 4 つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表 3 参照）。授業の受講者数が多いカテゴリーほど、回答率が低くなっていますが、今期は 2014 年度秋学期に比べ受講者数の多いカテゴリーでの回収率向上が認められます。

「学生による授業評価」の実施の際、アンケートに協力せずに帰ってしまう学生も多い、との声も教員から届いています。協力しない理由を調査することも重要ではありますが、まずは教員のみなさんに、それが自身の授業改善につながるという重要性、有用性を学生に伝えていただくことをお願いしたいと思います。また学生のみなさんには、次にその授業を受ける学生のため、また本学の教育力向上のために、一層のご協力をお願いいたします。

表3 回答率(2011年度春学期～2015年度春学期)

	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋	2015 春
全体	64.20%	54.80%	64.80%	59.90%	65.90%	60.60%	67.01%	60.77%	66.81%
30 名以下	89.20%	82.70%	87.80%	86.90%	88.40%	84.94%	88.71%	83.27%	88.89%
31～60 名	83.40%	75.70%	83.10%	77.90%	83.20%	79.61%	84.14%	80.40%	83.34%
61～120 名	70.30%	56.60%	67.10%	61.10%	68.50%	60.60%	70.52%	63.80%	71.89%
121～240 名	58.30%	48.00%	58.50%	53.00%	59.00%	55.24%	62.25%	56.58%	62.08%
241 名以上	46.70%	40.20%	49.10%	42.80%	50.70%	42.25%	50.02%	42.89%	52.05%

5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところが、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として 1 ページに 2 件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1～3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。

以上

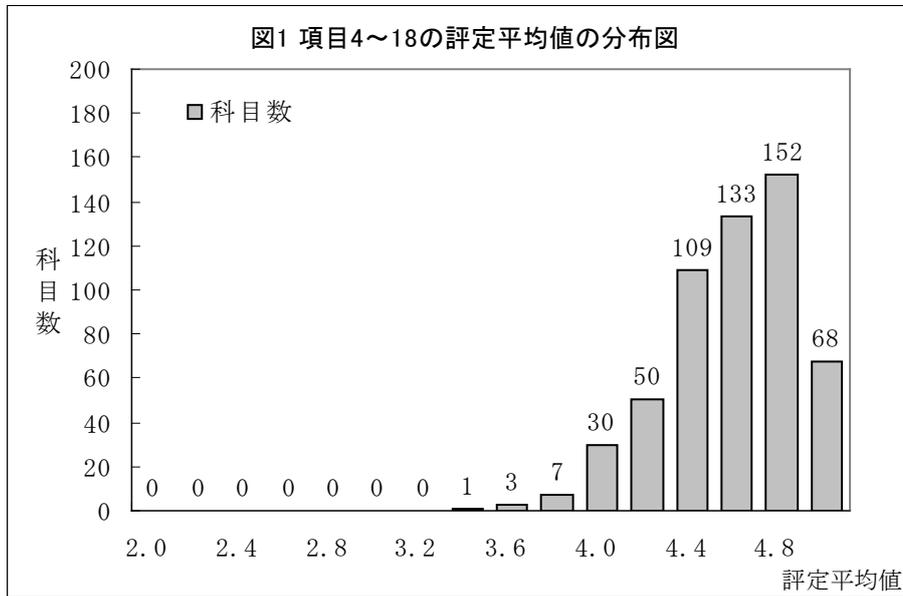


図 2-1 授業への出席

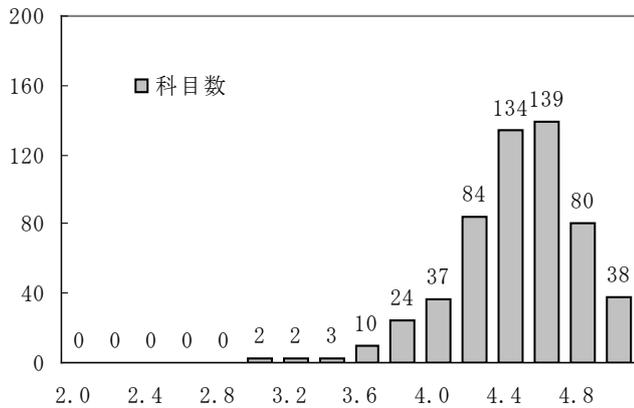


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

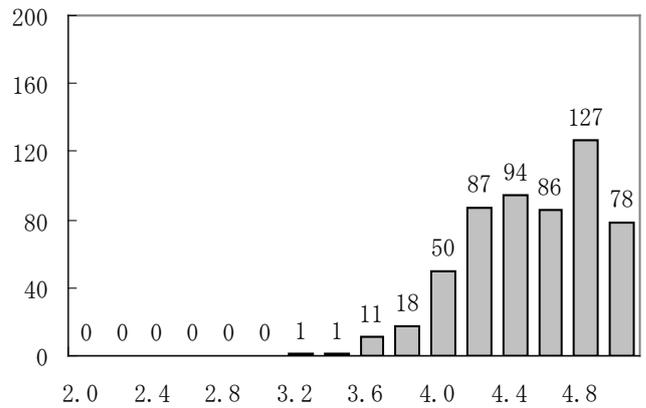


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

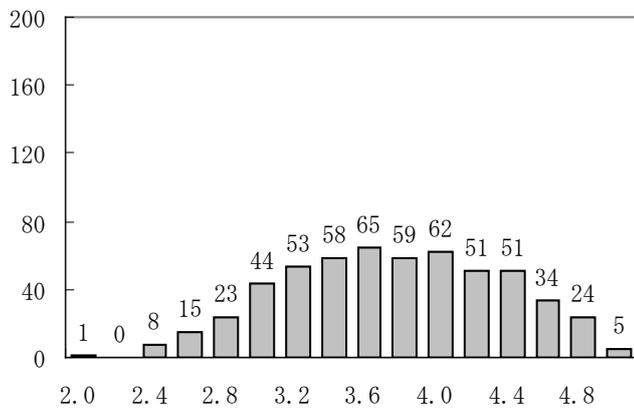


図 2-4 授業時間の厳守

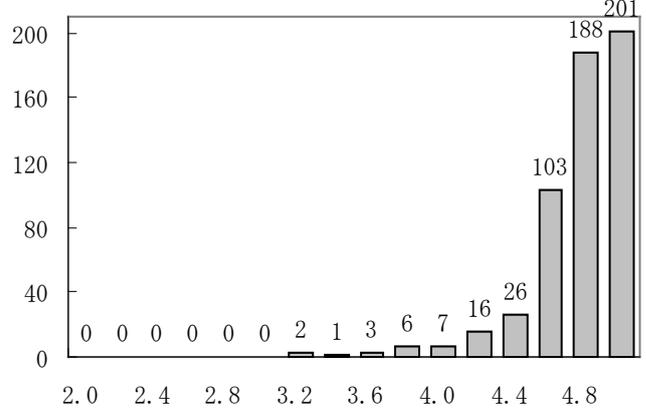


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

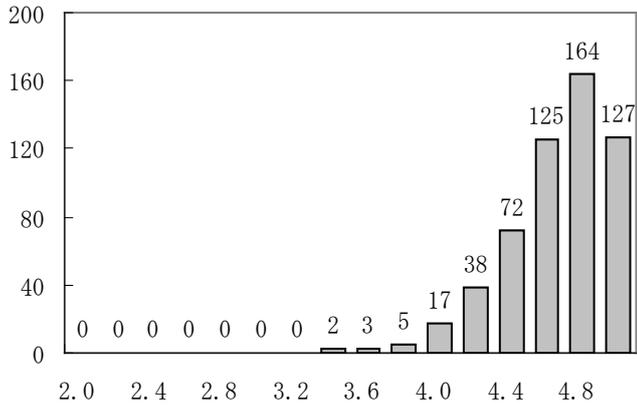


図 2-6 到達目標の明示

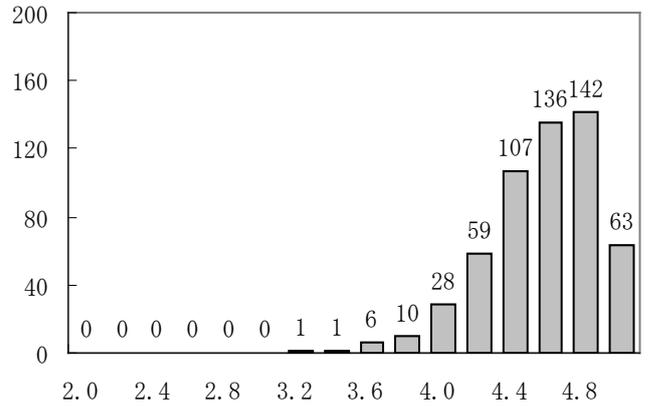


図 2-7 シラバスの有用性

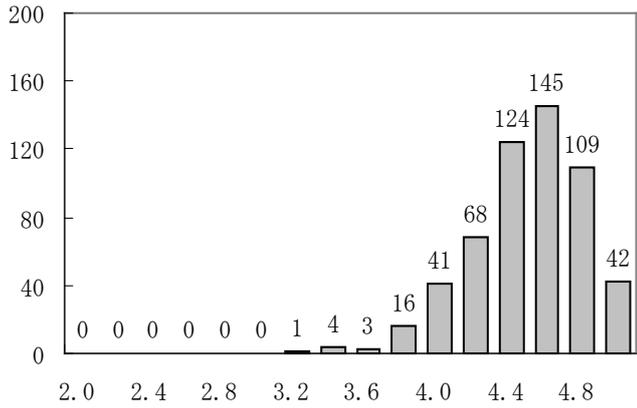


図 2-8 教員の声

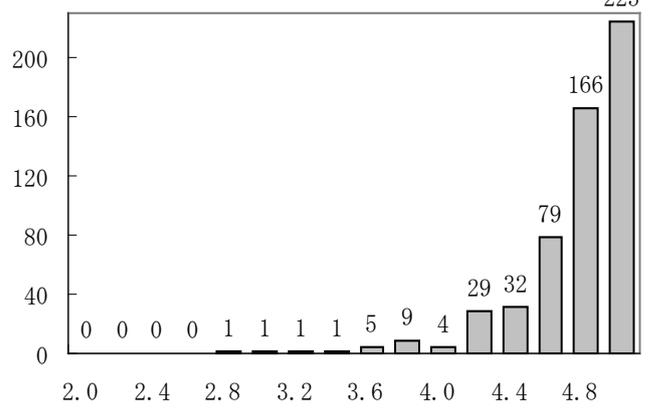


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

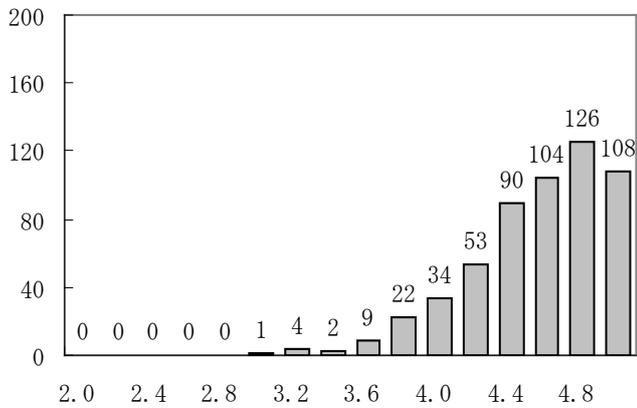


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

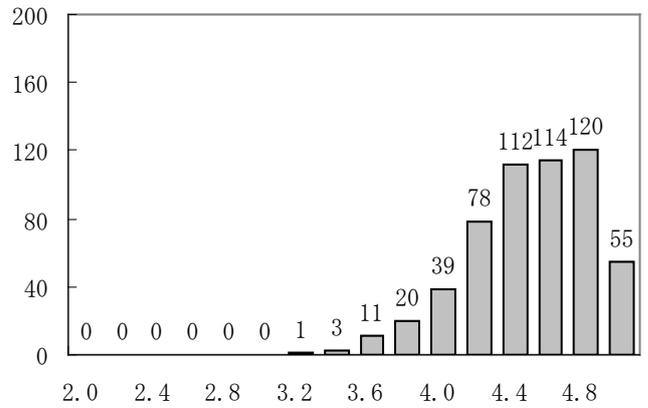


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

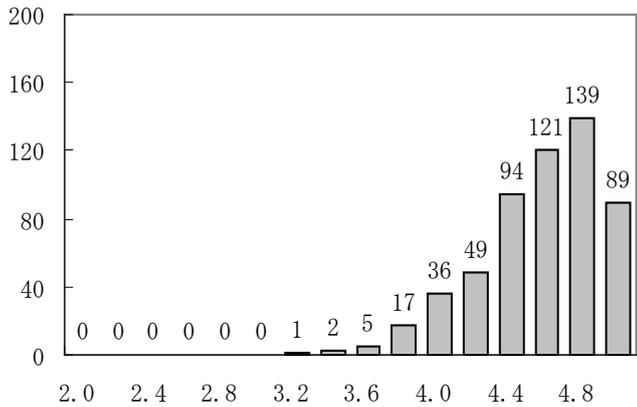


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

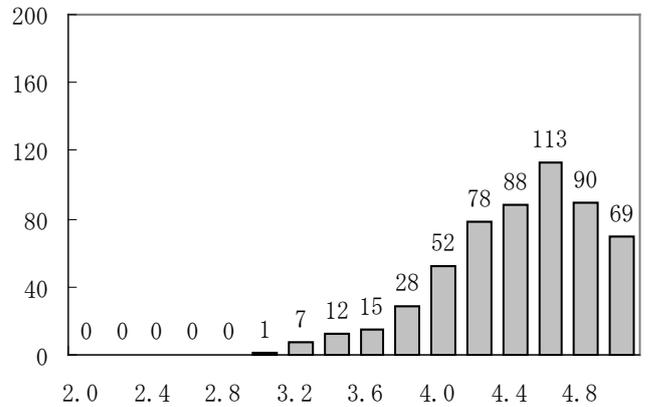


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

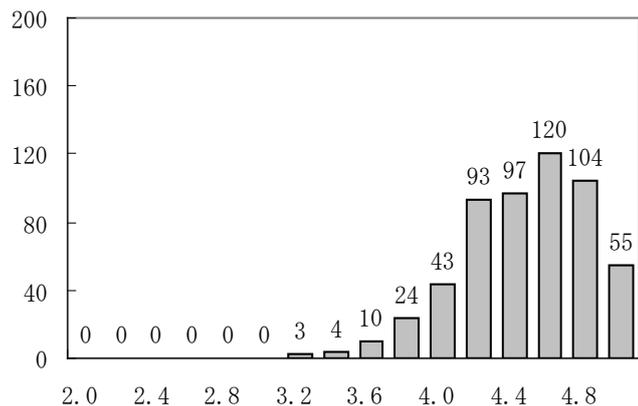


図 2-14 質問や相談の機会

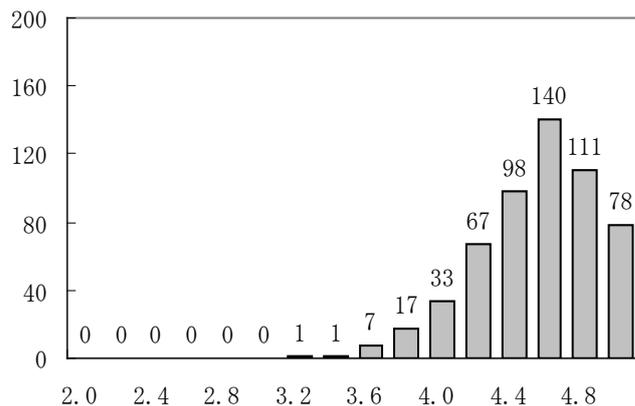


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

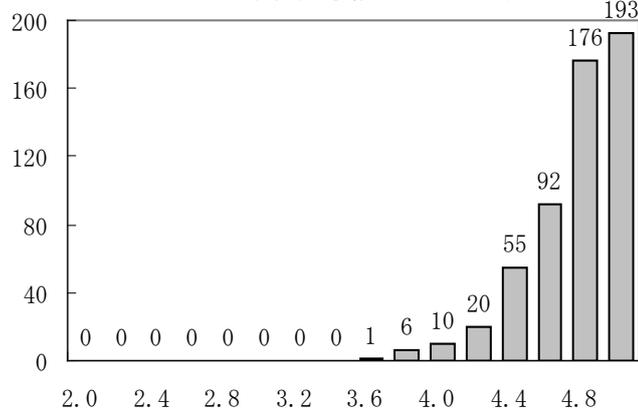


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

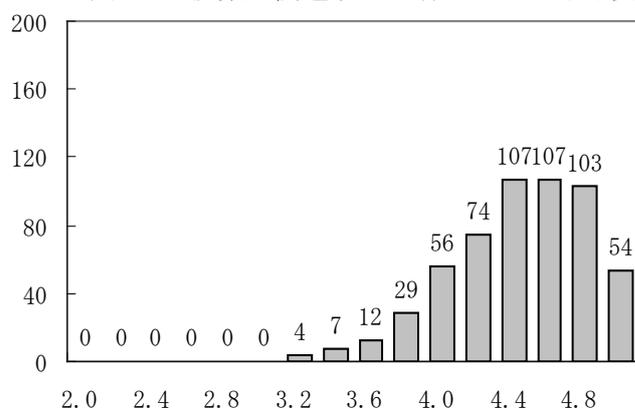


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

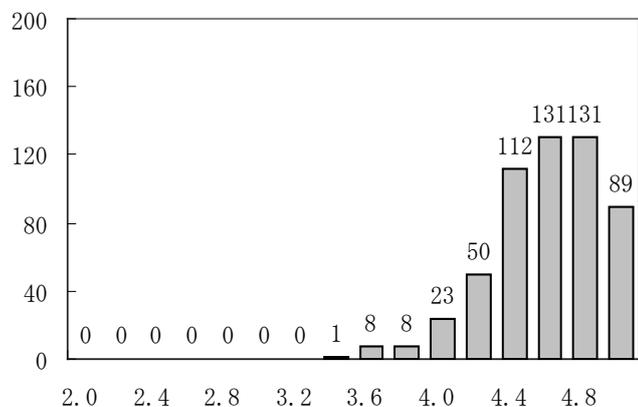


図 2-18 全体としての授業満足度

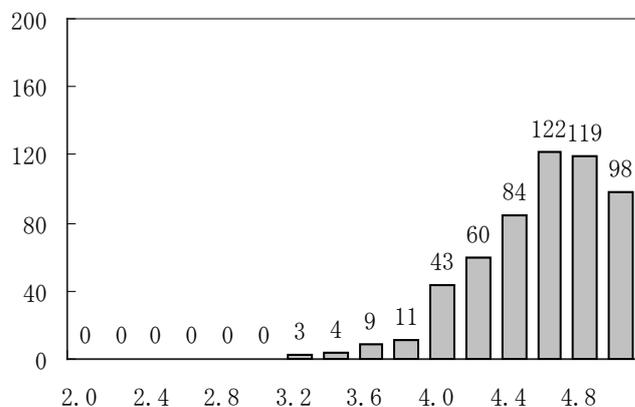


図 2-19 到達目標の達成に向けて授業は進んでいた

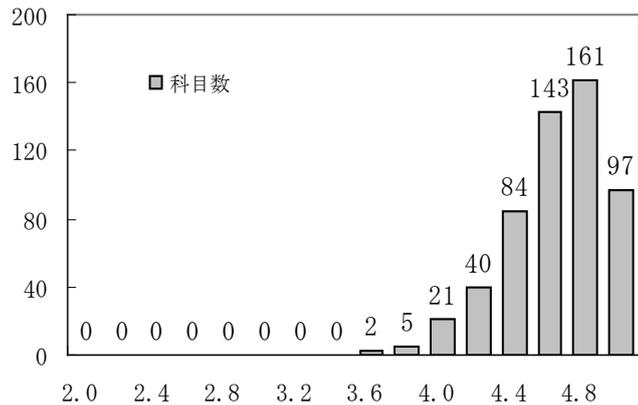


図 2-20 到達目標に向けて力が付いてきている

